

琉球大学連携講座

北中城村のまちづくりを考える

福祉の分野で考えるまちづくり

【福祉と地域の互助について】

令和4年10月11日

北中城村 福祉課

北中城村の概要（おさらい含む）

先ほどの講座で北中城村の自己紹介をしたところですが、
実は、2つの「日本一」があります

人口密度が「村」で日本一！

1 km²あたり 1,557.1人 （村面積：11.54km²）
（令和2年国勢調査結果より）

ちなみに、2位：沖縄県中城村 1,426.7人／km²
3位：沖縄県読谷村 1,168.0人／km²

北中城村の概要（おさらい）

2つめの「日本一」

女性長寿日本一！（平成17、22、27年国勢調査）

- ・ 沖縄県内の「平均寿命上位5市町村（平成27年）」

男 性（歳）		女 性（歳）	
西原町	81.3	北中城村	89.0
南風原町	81.3	名護市	88.8
北谷町	81.1	中城村	88.8
北中城村	81.1	西原町	88.4
今帰仁村	80.9	豊見城市	88.3
全国平均	80.8	沖縄県平均	88.0
沖縄県平均	80.3	全国平均	87.0

女性長寿の象徴「美寿（ミス）きたなかぐすく」

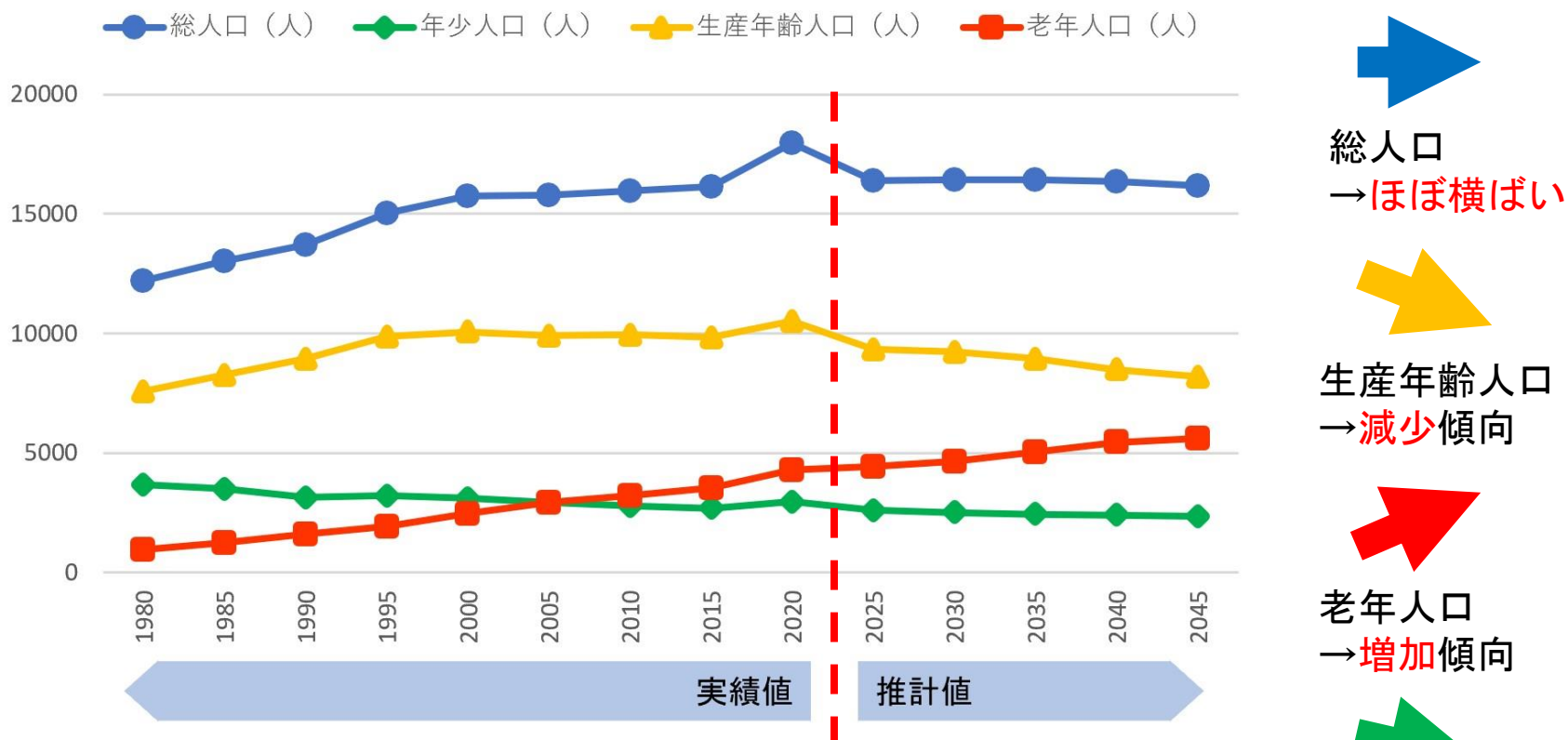
満80歳以上の元気な女性から選出

- 美寿がんにゅう（元気）
- 美寿さらばんじ（真っ盛り）
- 美寿ちむじゅらさ（清い心）

現在13代目のミスきたなかぐすくの3名が観光大使として
村内外でコロナに負けず活躍中！
（10/9（日）の北中城まつりでお披露目）



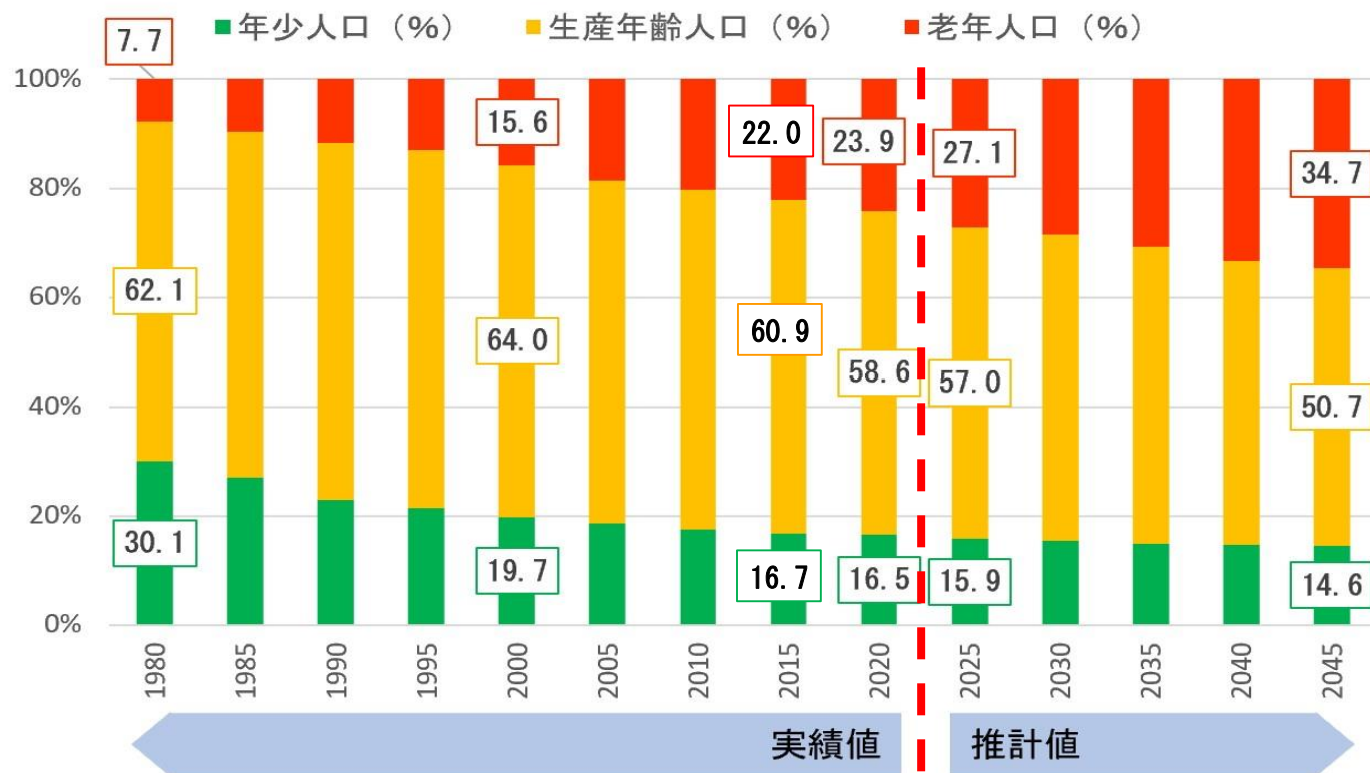
北中城村の人口推移



総人口は横ばいで推移するが、高齢者が増加

- 総人口
→ ほぼ横ばい
- 生産年齢人口
→ 減少傾向
- 老年人口
→ 増加傾向
- 年少人口
→ 微減傾向

北中城村は高齢社会を超え「超高齢社会」



2015年には
すでに
超高齢社会
に突入

生産年齢
人口・
年少人口
の割合が
いずれも
減少

出典：地域経済分析システム

※ 統計処理の都合上、合計が100%にならない年があります。

高齢社会：総人口に占める老年人口の割合が14%以上

超高齢社会：総人口に占める老年人口の割合が21%以上

「元気な高齢者」 だけではない…



年々介護保険
給付費が
緩やかに増額

元気な
高齢者
だけとは
限らない

出典：介護保険事業状況報告

その他の課題

高齢化に伴う課題は他にも

- ・ 独居高齢者の見守り
- ・ 老老介護（高齢の「親」を高齢の「子」が介護する）
- ・ 高齢者に対する虐待
- ・ 高齢者を狙った特殊詐欺
- ・ 災害時の避難支援

住民には、高齢者のほか、障がい者・障がい児のいる世帯、子育て世帯、生活困窮世帯などさまざま

その他の課題

【障がい者・障がい児等に関する課題】

- ・ 独居障がい者の見守り ・ 障がい者虐待
- ・ 7050問題（障がい者の「親亡き後」の生活） など

【子ども・子育てに関する課題】

- ・ 多子世帯の支援 ・ ひとり親の支援 ・ 児童虐待 など

その他、生活困窮者に対する支援 など

これらは、それぞれ 又は 複合的 に発生

さまざまな課題に対し、全体的に支援を考える必要がある

北中城村の福祉に関する計画を策定

北中城村では、
北中城村総合計画のほか、

第4次北中城村地域福祉計画

（平成29年3月策定）に基づいて、
高齢者や障がい者、子育て世帯や生活
困窮者など福祉に関する事業を実施

<根拠>

社会福祉法（昭和26年法律第45号）

第4条「地域福祉の推進」

第107条「市町村地域福祉計画」



基本理念

地域の絆を深め 結いの心で支える
きたなかぐすく

基本理念を支える 「4つの柱」（基本目標）

- ① 地域での暮らし・生活を支えるサービス等の充実
- ② 地域福祉を支える人づくり・組織体制づくり
- ③ 地域で安心して暮らせる基盤づくり
- ④ 地域福祉推進体制の強化

基本理念の実現に向けた、2項目の重要施策

- ① 地域における支え合い活動の充実
- ② 地域福祉を支える担い手の育成

このような場合、どう支援する？

【実際にあった困りごと相談】

Aさんについて、ある住民からの相談

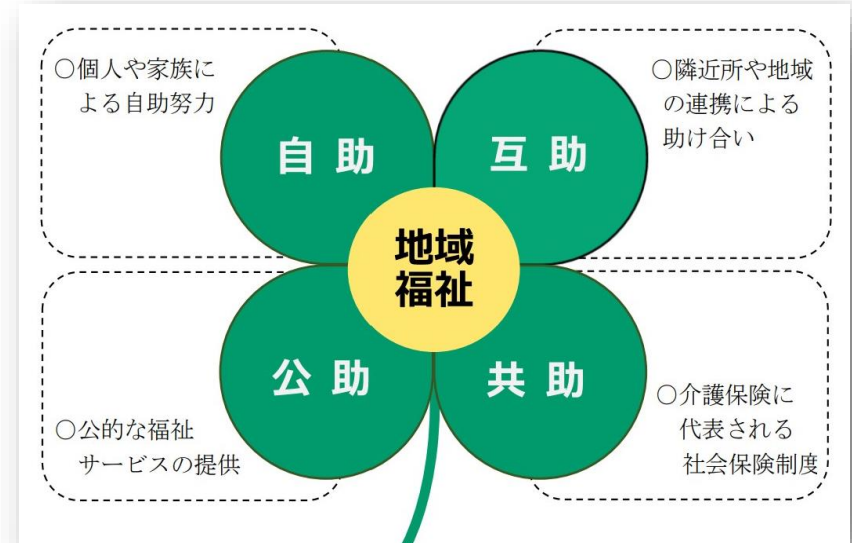
- ① 年齢は50代で、特定疾病はない
 - ② すり足で歩いているが、身体障害者手帳は未交付
 - ③ 散歩したいが、一人での外出が不安。
でも知らない人にはついてきてほしくない。
-
- ① → 介護保険の対象外
 - ② → 障害福祉サービスの対象外
 - ③ → ①、②を含め、適する公的サービスがない

行政だけでは福祉の支援ができない

地域福祉を進めるためには、行政だけではなく

- 地域の住民とその家族
- 知人やサークル等の仲間
- 地域の団体
- 福祉関連事業者 など

それぞれがそれぞれの役割を担い、お互いに力を合わせる
ことが必要



「自助」 「互助」 「共助」 「公助」

の4つの視点で重層的に取り組む

自助・互助・共助・公助の違い

【自助】

自分の力で解決すること（サービスの購入も含む。）

【互助】

家族、友人や近所の知人など、お互いに助け合い解決すること

【共助】

医療保険や年金、介護保険サービスなど、費用の一部を負担し、制度化された仕組みで支え合うもの

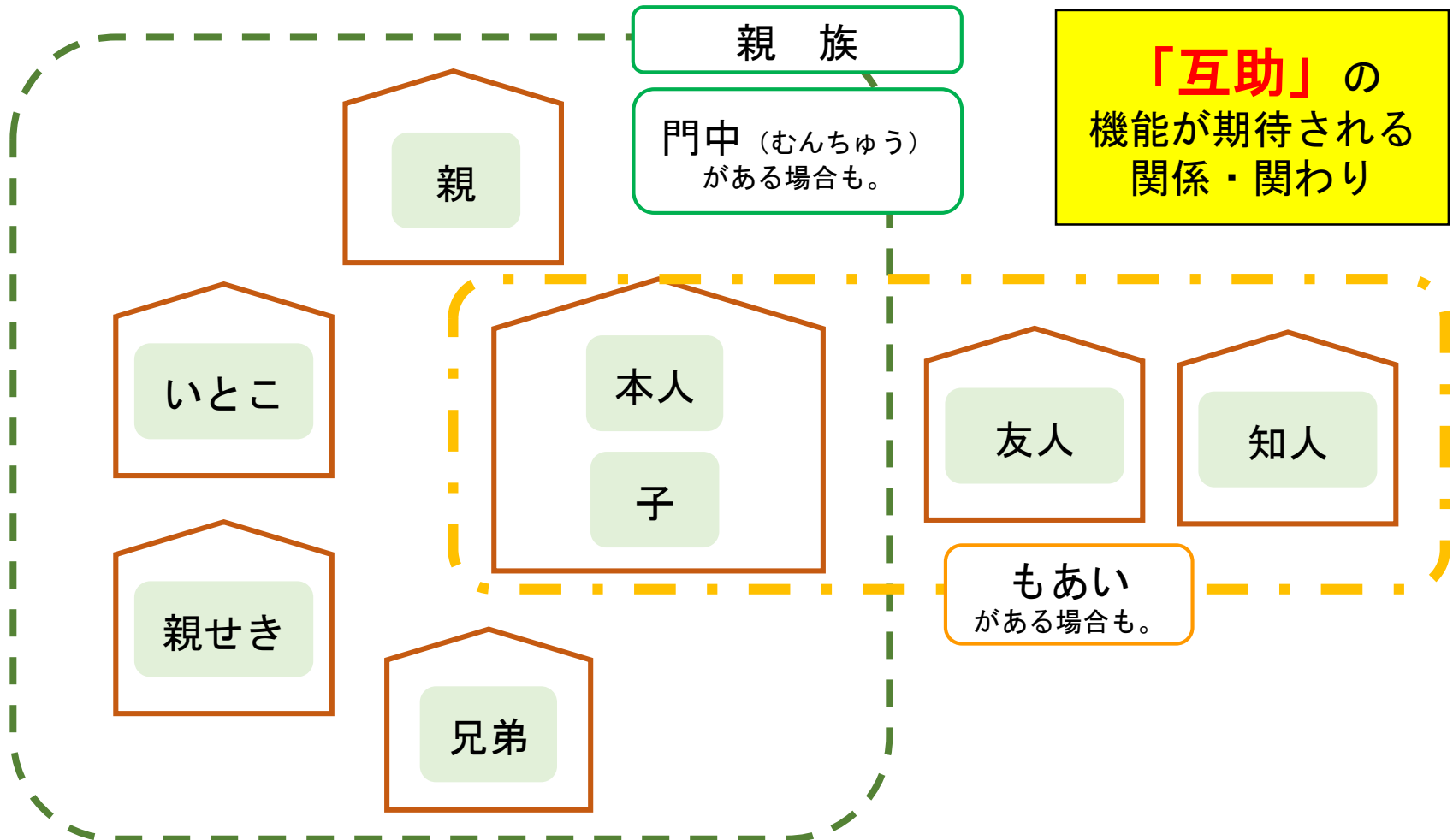
※災害時支援等一部の分野では「互助」と同義で使用されることも

【公助】

生活保護など、行政による支援

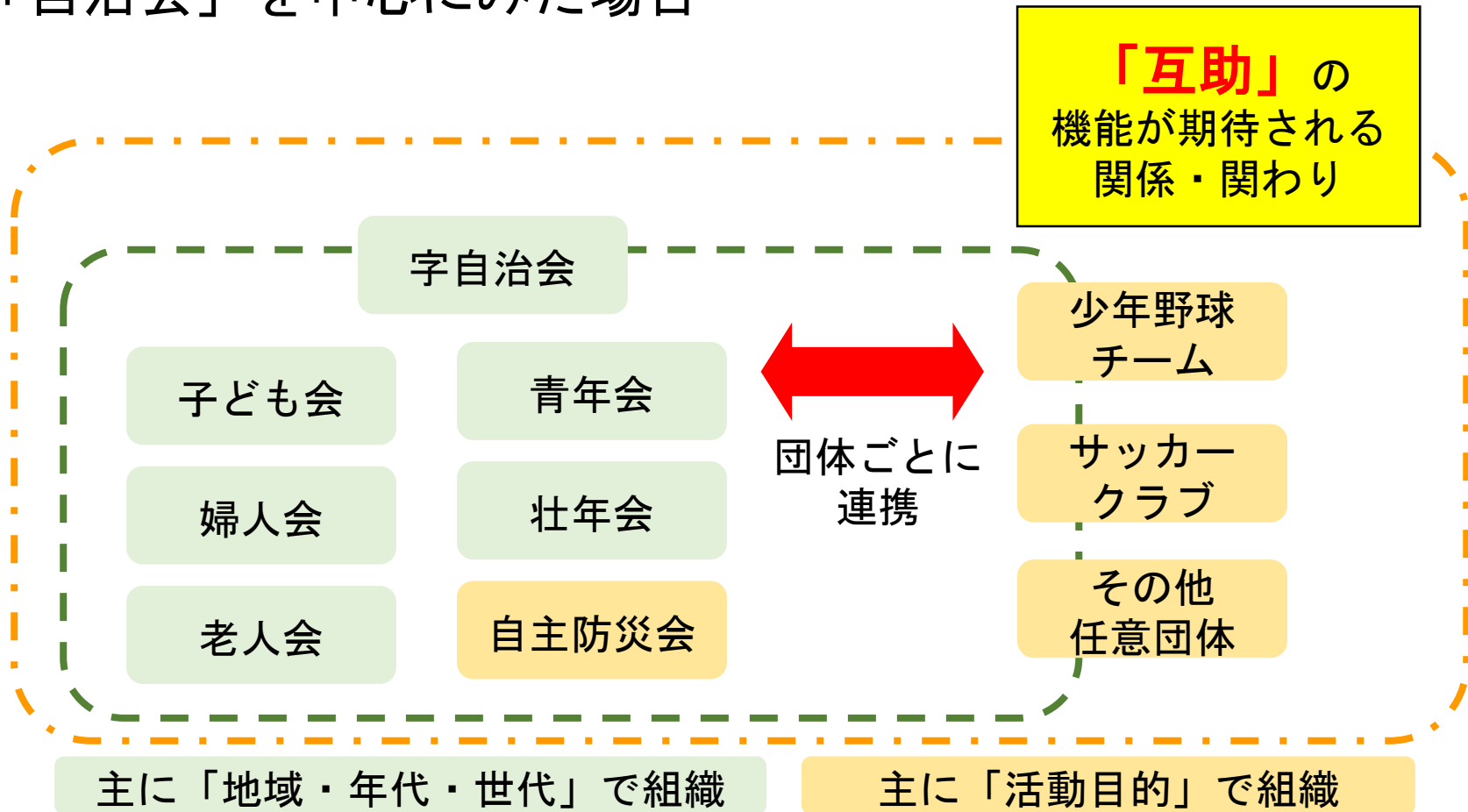
「地域」にあるコミュニティ

「本人」を中心に見た場合



「地域」にあるコミュニティ

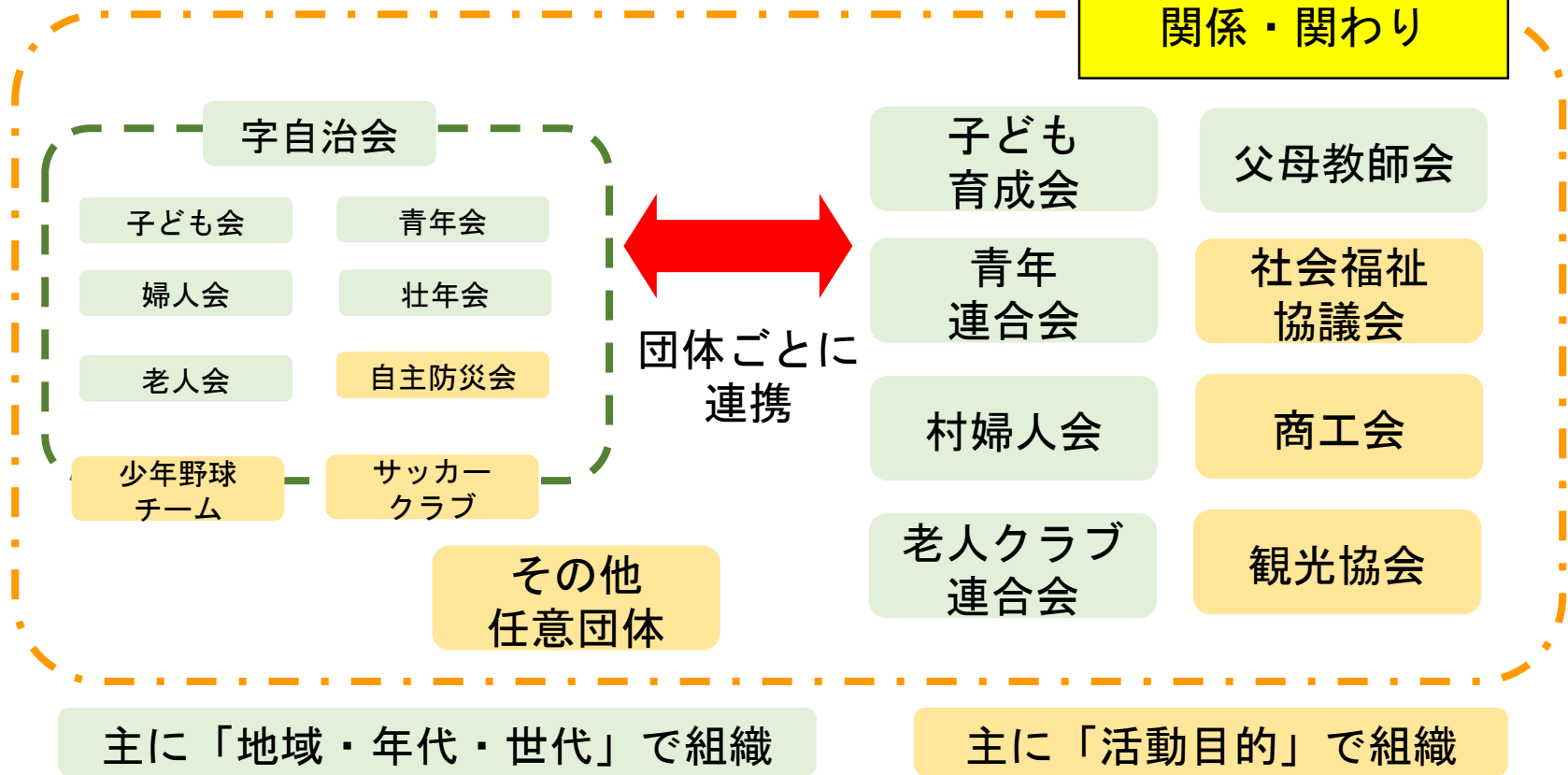
「自治会」を中心にみた場合



「地域」にあるコミュニティ

自治会よりもう少し広域的にみた場合

「互助」の
機能が期待される
関係・関わり



「地域」にあるコミュニティ

「もあい」のような小規模なものから
「〇〇連合会」のような（比較的）大規模なものまで
さまざまな種類のコミュニティが存在する

- ・ **主に「地域・年代・世代」で組織**されたコミュニティ
自治会、子ども会、青年会、壮年会、婦人会、
老人会など
- ・ **主に「活動目的」で組織**されたコミュニティ
自主防災会、少年野球チーム、サッカークラブ など

「互助」を支える団体・組織

- ・ 自治会（行政区ごとに組織）
- ・ 自主防災会（地域の避難時要支援者の支援等）
- ・ 社会福祉協議会（福祉全般の支援）
- ・ 民生委員児童委員協議会（地域の相談・見守り役）
- ・ 身体障害者協会（障がいに関する相談や活動の場の確保）
- ・ 母子寡婦福祉会（ひとり親に関する相談や仲間づくり）
- ・ おんぶにラッコの会（子育て中の親の交流の場）
- ・ 子ども育成会連絡協議会（青少年健全育成に関する支援）
など

※一部、地域によって呼び方が変わるものもあります

「互助」を支える団体・組織

- ・ シニア健康推進リーダー
（高齢者の健康づくり「自主体操サークル」運営のお手伝い）

※養成講座の様子 →



- ・ 生き生きふれあい会（高齢者のゆんたくの場）

- ・ フレイルサポーター
（介護予防のためのボランティア）

※養成講座の様子 →



「地域」にあるコミュニティ

これらの団体は、

- ・ 地域の防犯・交通安全
- ・ 独居老人や子ども、障がい者等の見守り

などの支え合い活動を行うなど、**「互助」**
で大きな力を発揮している

しかし、これらの「互助」を支える団体で
会員（担い手）が減少傾向にある。

特に、子ども会、青年会、婦人会、老人会など

主に「地域・年代・世代」で構成された団体で顕著

地域の団体・組織に属しない理由

- ・ 転入者の増加（隣近所は知らない人ばかり）
- ・ 物質的な豊かさ（他人に頼らなくても生活できる）
- ・ 価値観の変化（自分のためだけに時間を使いたい）
- ・ 非正規雇用や生活困窮者の増加
（自分のことで精いっぱい・他人にかまっていられない）
- ・ 負担感が大きいイメージ
（「大変そう」って情報がインターネットですぐ入手）



地域コミュニティに属さない人が増加



「互助」の機能がどんどん弱くなっている

地域の団体・組織に属しない理由

Q. 近所づきあいについての考え

問1 近所づきあいについての考え

(単数回答)

	今回調査		前回調査	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①普段の生活の中での助け合いによる地域づくりのために必要	166	46.9	282	59.0
②伝統行事を守り、継承するために必要	11	3.1	6	1.3
③見知らぬ人がいたらすぐ分かるなど、防犯のために必要	34	9.6	50	10.5
④災害が起こったときの助け合いのために必要	60	16.9	67	14.0
⑤地域のまとまりのために必要	43	12.1	44	9.2
⑥近所とはあまり関わりを持ちたくないの、必要ではない	3	0.8	3	0.6
⑦近所づきあいはわずらわしいので、必要ではない	5	1.4	3	0.6
⑧近所づきあいの必要性を感じない	21	5.9	8	1.7
⑨その他	5	1.4	5	1.0
無回答	6	1.7	10	2.1
合計	354	99.8	478	100.0

出典：住民意識調査報告書（第4次北中城村地域福祉計画）

約9割の方が、近所づきあいは「必要」

約1割の方が、近所づきあいは「必要でない」

地域の団体・組織に属しない理由

Q. どのような地域活動に参加しているか

問3 参加している地域活動

n=354 (複数回答)

	件数	割合(%)
①自治会・婦人会・子ども会・青年会・老人会などの活動	111	31.4
②PTA活動	15	4.2
③子育てサークル活動	6	1.7
④高齢者・障がい者に関わる活動	14	4.0
⑤文化・スポーツに関する活動	33	9.3
⑥消防団、自主防災組織の活動	1	0.3
⑦保健・福祉ボランティア団体の活動	9	2.5
⑧保健・福祉以外のボランティア団体の活動	6	1.7
⑨その他	9	2.5
⑩地域活動にはほとんど参加していない	194	54.8
無回答	12	3.4

出典：住民意識調査報告書（第4次北中城村地域福祉計画）

約半数の方が、何かしらの活動をしている

約半数の方が、地域活動にはほとんど参加していない

地域の団体・組織に属しない理由

Q. 地域活動に参加していない理由

問3-2 地域活動に参加していない理由

n=194 (複数回答)

	件数	割合(%)
①自治会に加入していないから	32	16.5
②仕事が忙しくて時間がないから	90	46.4
③育児や介護のため時間がないから	28	14.4
④興味のある地域活動がないから	22	11.3
⑤どんな活動があるのか情報が入ってこないから	42	21.6
⑥一人では参加しづらいから	39	20.1
⑦人間関係がわずらわしいから	20	10.3
⑧その他	25	12.9
無回答	3	1.5

出典：住民意識調査報告書（第4次北中城村地域福祉計画）

「② 仕事が忙しい」、「⑤ 情報が入ってこない」、
「⑥ 一人では参加しづらいから」 が上位に

地域の団体・組織に属しない理由

Q. 地域の問題に対して、地域住民の支え合いは必要か

問15 地域の問題に対して、地域住民の支え合いは必要か (単数回答)

	件数	割合(%)
①必要だと思う	309	87.3
②必要だと思わない	4	1.1
③わからない	36	10.2
無回答	5	1.4
合計	354	100.0

出典：住民意識調査報告書（第4次北中城村地域福祉計画）

多くの方が、地域住民の支え合い「互助」を必要と感じている

新型コロナウイルス感染症の影響

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症で活動に大きな影響が…

- ・ 活動停止や規模縮小を余儀なくされた
- ・ ゆんたく、会食など対面による接触の制限
- ・ 大人数で会えない
- ・ 「不要不急」の外出制限 など

感染拡大防止のためやむを得ない内容もあるが…
今までのやり方を一部変える必要が出てきた

地域の「互助」を支える人財確保

地域で「互助」を支える人財

をどのように確保するかが今後の大きな課題



1人で
支えるよりも…



3人で
支えるよりも…



たくさんの人で
支えたほうが楽に続く！

障がいのある方も、子どもも、その他困った人も、
多くの人が少しずつ手伝うと、小さな力でも助け合える！

地域の「互助」を支える人財確保

地域で「互助」を支える人財

をどのように確保するかが今後の大きな課題

「しくみ」があっても「人」がいないと動けない…

「人」がいないと支え合えない…

みんなの少しずつの「チカラ」が大きな「元気」に！

ぜひ、皆様のチカラ・アイデアをお貸してください！

ご清聴ありがとうございました。